

# もろびと

2020

1

No.46



## 表紙 のことば

### 櫛引のリンゴ

櫛引地域三千刈は、リンゴ栽培が盛んな地区です。減反政策によって、リンゴ園は拡大し、十町歩以上になりました。赤川周辺を園地として、「ふじ」を主力品種に二十種類のリンゴを生産しています。収穫時期は9月から12月中旬までで、早生・中手・奥手の順に収穫していきます。今シーズンは例年になく天候に恵まれ、着色も良く、糖度が高い良質なリンゴが実りました。

毎年秋には、リンゴ狩りを楽しむ家族連れや幼稚園・団体等で賑わいます。近隣には温泉施設や運動公園があり、芋煮会も盛んです。

近年果樹農家が衰退していくことに憂いを感じ、令和元年立ち上がった人達が、地域の農地を守ろうと活動を始めました。“フルーツの里くしびぎ”の果樹農業振興に期待します。（写真は三千刈のリンゴ農家、斎藤司さん）

（高橋文雄推進委員）



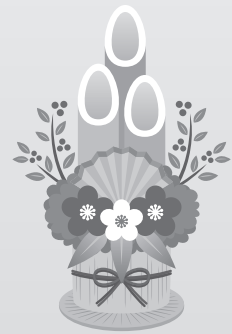




# 年頭のごあいさつ

鶴岡市農業委員会

会長 渡部長和



新年あけましておめでとうございます。皆様にはご健勝で新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

平成から令和へと元号が変わり、新たな時代が始まったわけですが、昨年は気象災害の多い年となりました。

6月18日に発生した山形県沖地震は、本市にとつてかつてない程の大きな地震で、温海地区・豊浦地区を中心に、屋根瓦の崩壊などの被害が甚大となりました。

9月末から10月にかけては、台風が毎週のように接近・上陸し、特に台風19号は、日本各地に大きな被害をもたらしました。被害に遭われた皆様に、改めてお見舞い申し上げますと共に、い

ち早い復旧・復興を望んでおります。

そのような中、本市の稲作においては、作況指数106と前年より10ポイント以上も高くなりました。庄内特産のただちや豆、砂丘メロン、そして庄内柿なども良い結果となり、私たち農家としても、ホッとしているところです。

日本の人口減少は急速に進んでおりますが、農業者も同様に減少しており、高齢化も進んでおります。新たな担い手、後継者、新規就農者の確保が喫緊の課題となっている中で、今年4月に開設する鶴岡市立農業経営者育成学校「SEA D S」には、大いに期待するところですので。

農業委員会では、農地利

用最適化を重点業務として、農地の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進に取り組んでいます。法人や大規模農家への集積・集約も大事ですが、本市の耕地面積の85%を占める中小規模の家族経営体にも期待しなければなりません。特に中山間地における農地の維持管理は、自然災害を防ぐためにも大変重要です。農業委員・農地利用最適化推進委員がONE TEAMとして、農家の皆様の負託にこたえられるよう、本市農業振興に取り組んでいきます。

今年も皆様にとつてより良き年になるよう祈念し、あいさつとさせていただきます。

## 皆川市長へ 建議・要望書を提出

農業委員会では、農業に関する課題を行政に反映してもらうため、現場の声を市及び国・県等の関係機関へ伝える活動を行ってまいります。

10月25日に開催された第5回定例総会では、以下の4件の建議・要望が提案され、全て原案のとおり可決されました。

- 令和2年度鶴岡市農業振興施策に関する建議書
- 地域農業の多様な担い手の育成に関する要望書
- 郷土料理・行食などの食文化の継承に関する要望書
- 6次産業化共同利用加工施設の早期開設に関する要望書

総会で決議された市長あての建議・要望書は、12月11日、農業委員会4役が皆川治市長を訪問し、要望の

趣旨等を説明した上で提出しました。



皆川市長からは、各種補助金制度や市の施策の現状について説明があり、「各要望について、農家の方の声を聞きながら、今後も関係機関と連携し取り組んでいきたい」との話がありました。

農業委員会では、今後も地域農業を守るため、農業者の皆さんが意欲と希望を持って農業に取り組めるよう活動していきます。



## 営農・担い手

11月6日  
山形大学  
農学部学生との  
交流事業

当日は晴天に恵まれ、大学生19人、委員等17人が参加し、大規模経営者の施設2か所を視察しました。

最初に訪問した藤島地域渡前の井上農場では、経営面積が約47・9畝で、作業受託を含めると70畝を超え、主力の米は特別栽培米にこだわり数々の賞を受賞されていました。施設園芸ではトマト、小松菜等を栽培して有名店舗に納品し、信用を積み重ねています。多くの研修生の受け入れを行いながら魅力ある経営を行っていました。給与についても、公務員に負けない金額を目指したいということで、大学生にも農業の無限の可能性を感じていただけたと思っています。

次に、藤島地域小中島に本社を置く(有)田和楽のライスセンターを視察しました。田和楽は、

経営面積が約33畝で、他にも施設園芸、もち加工、菓子芸品な

どの製造販売を行い、鶴岡市では6次産業化の先駆的な取り組みをしている法人です。この施設は昨年建設された軽量鉄骨のビニールハウスで、面積が横39m、奥行き18mの702平方mあります。今年は乾燥機4台で60畝の乾燥調製を行いました。将来は乾燥機10台で乾燥調製面積200畝を見込んでいるそうです。総工費は1億円を超えるそうですが、既存のライスセンターから見れば安価に抑えられ、コスト削減につながると感じました。

学生の皆さんからも熱心に参加していただき、有意義な時間を過ごすことができました。

(専門委員会委員長 石川守)



# 専 門 委 員 会 活 動 報 告

## 食育・地産地消

11月7日  
食育  
おにぎり教室

平成24年度から継続してきたおにぎり教室も、今年で8回目を迎え、幼少期から食やお米に親しみや関心を持つてもらいたいという思いのもと、今回は羽黒地域の貴船保育園の年長児17人を対象に開催し、委員15人が参加しました。

最初にお米をとぐ体験をしてもらいました。子供たちは、濁ったとぎ汁が少しずつ透明になっていく様子や、ガラス鍋の中でお米がフツフツとなつて炊けていく様子に興味津々。炊きたてのお米の香りやつやを体感した後、実際ににおにぎり作りに挑戦し、委員のアドバイスを受けながら思い思いの形に握っていました。

その後、お米が出来るまでの流れについて、写真を使いながら説明し、稲穂やもみ、玄米など、普段あまり目にしないであ

るものにも触れてもらいます。好き嫌いなく食べてもらいたいという趣旨の絵本と紙芝居の読み聞かせ、恒例となった農業委員会オリジナル「つや姫体操」も園児と一緒に楽しみました。

最後は自分たちで作ったつや姫おにぎりの給食を皆でいただきます。一人で何個も食べる園児の様子を見て、おいしいお米をいっぱい食べてすすく大きく育ってほしいと改めて感じました。

(専門委員会委員長 荻原優太)





広報編集  
委員が

# 〇〇に いってきました



おじゃまします!

温海地域在住の小野寺志保さんは、旧福栄小で行われている養蚕業に携わり、鶴岡のシルクを使った商品を開発したり、オーガニックコスメアドバイザー“sana”さんとして、自然のものを使った化粧品の製作・販売・ワークショップを行うなど、精力的に活動されています。

あつみ温泉たちばなやで「蜜ろうクリーム作り」のワークショップが行われると聞き、体験も兼ねてお話を伺ってきました。



小野寺志保さん

活動のきっかけは、家族が体調を崩したことや、自分と娘さんが敏感肌だったことから食と化粧品に興味を持ち、体に入るものや肌に触れるものは安全なものを使いたいと思うようになった。

つたそうです。市販の石鹸では肌が荒れてしまい、手作り石鹸の使用で改善したことが、オーガニック化粧品製作の出発点でした。



肌に直接触れるものは、製作過程のわかるものだけ使ってほしいとのこと。子供に肌のことで悩んでほしくない、自分と同じ悩みを持つ人にオーガニックを少しでも意識してもらいたい、さらには自然のものを使うことで美しい地球を守っていかれたらという強い思いを語ってくれました。

年2回、養蚕業の手伝いをして小野寺さん。平成25年から始めたオーガニックコスメ作りのワークショップの基材としてJapanシルクに興味を持ったのがきっかけでした。蚕は農業に弱いため、エサである桑の葉は無農薬で育てないといけません。自然保護にも通じるものがあり、その製造過程から使用後まで、シルクがサステイナブル（持続可能）な社会形成に最適であることを理解し、どんどんシルクオタクになっていったそうです。繭玉にはシミ、しわを除去してくれるピーリング効果があり、触れるだけできれいになれるとのこと。日常使いしてもらいたいとマスクも製作販売しています。



内側が鶴岡産シルク100%のマスク。

また、桑の葉の効用を知り、体にも環境にも良いものだと理解し、桑の葉茶の販売も始めました。桑は豊富なミネラルを含んでいるため青のりのような香りが出て、糖尿病や高血圧、がん予防、便秘、ダイエットなどに効果的だそうです。

材料3つ  
シルクパウダー入り  
蜜ろうクリーム作り



ビーカーに「天然のワックス」ともいわれるホホバオイルと蜜ろうを入れ数分間加熱。紙コップに移し替えシルクパウダーを投入して、空気を含ませながら攪拌すると薄黄色のクリーム状に変化した。初めての化粧品作りに感激！その晩から妻とともに使用してみた。三日もすると肌がしっとり。普段何もケアをしていなかった私の方が、効果が早く現れた!?

現在は温海庁舎総務企画課に籍を置き、「オーガニックが当たり前になると良い。そのお手伝いができたら」と、人・環境にやさしい活動を続けている小野寺さん。温海の魅力を聞くと、「空気がすごくおいしくて、人と人とのつながりが密な町」と話してくれました。

(佐藤宣夫推進委員)



## 志保さんご紹介

今回は…

齋藤かおりさんに

会ってきます!

「櫛引で自然農をされている方です。お米も野菜もとてもあったかい味がします。」(志保さん)



# 農業者年金

加入しています

鶴岡 西郷  
齋藤 大地さん  
(35歳)

西郷地区の辻興屋で農業を営んでいる齋藤大地さんは、高校を卒業後、神奈川県に就職しましたが、仕事上の怪我が原因で10年ほどで退職し、地元に戻って来ました。その後、こちらで就職先を探すも思うような仕事が見つからず、悩んだ結果、家業であ

る農業をやるかと決意したそうです。

齋藤さんのお宅では、水稲が4畝、転作での大豆、砂丘畑が1・5畝、そして30アほどのハウスではメロン、ミニトマト、あさつきを栽培しています。辻興屋の集落営農に加入しており、水稲や大豆の収穫オペレーターとして活躍されています。

また、最近では父親の知人の紹介で、冬期間の除雪作業を行うために免許を取得して頑張っているということで、地域の交通網を守る意気込みも感じました。



農業者年金に加入したきっかけは、地元の委員や父親の勧めだったといいます。それまでは制度の内容を良く理解していなかったそうですが、丁寧な説明を受けて加入を決め、昨年4月に加入しました。国から保険料の補助を受けられる政策支援の制度を活用して加入しています。



将来の規模拡大の目標なども聞かせていただき、少子高齢化による農業離れが進む中で、集落営農を中心に地域の担い手としての活躍を期待したいと思います。

(太田裕徳広報編集委員長)

安心の備えを  
人生  
100年時代

## 国民年金だけでは 老後の生活費が 約10万円不足\*です!

\*国民年金の支給額は月額6万5千円(40年加入の場合)、夫婦お二人で約13万円です。一方、高齢農家の家計費は夫婦お二人で23万~24万円が必要です。(総務省家計調査などより)

農業者  
年金とは  
?

農家を知りつくした

メリット  
いっぱい!

農家のための年金です

加入要件は3つだけ。**60歳未満の国民年金第1号被保険者**で、**年間60日以上農業に従事**している方であれば誰でも加入できます。自分名義の農地を持っていない配偶者や後継者など、家族農業従事者の方も加入できますので、ご家族一人ひとりに準備しておきましょう。



- ① 少子高齢化に強い積立方式です
- ② 保険料は全額社会保険控除となり大きな節税となります
- ③ 保険料は2万円から6万8千円の間で自由に決められます
- ④ 一定の要件を満たす方には保険料の国庫補助があります
- ⑤ 80歳前に死亡した場合は遺族に死亡一時金が支払われます

詳しくは、お近くの農業委員会またはJAまで



# 大盛況! 大産業まつり

毎年恒例の寄せ豆腐のふるまいや、地元委員が作った農産物の販売などを行いました



ご来場ありがとうございました!



## あしがき

新年明けましておめでとうございます。日頃より農業委員会活動と広報活動に御理解、御協力をいただきありがとうございます。

去年は元号が変わり、時代の節目を迎える中、ラグビーで盛り上がった一年でした。庄内地域では、水稻・園芸作物ともに豊作で喜びの年となりましたが、その一方で、山形県沖地震や台風15号・19号による甚大な被害が発生し、災害の多い年でもありました。被害に遭われた地域の早急な復旧・復興を願うばかりです。

今年は、東京五輪・パラリンピックが開催されます。国内外に地元農産物をアピールするチャンスでもあり、あの興奮と感動を味わえると思うと今からとても楽しみです。近年、異常気象が増えてきていますが、これがあたりまえだと思い、みんなが笑顔で記憶に残る良い年にしましょう。

(石井光明推進委員)

## アグリランドバンク 新規就農支援型 農地の確保を支援します!

農地の貸付けに協力してくださる支援農業者・団体です。(12月末現在、敬称略)

- (有)鶴岡協同ファーム (鶴岡・民田)
- (株)アシスト (鶴岡・本田)
- (有)田和楽 (藤島・小中島)
- 上新田農事組合法人 (藤島・長沼)
- 井上農場 代表・井上 馨 (藤島・渡前)
- (株)ハグロファーム (羽黒・川代)
- (農)あさひの輝き・まんてん (朝日・東岩本)
- (株)あつみ農地保全組合 (温海・湯温海)

支援内容、条件など、詳しくは農業委員会まで。

経営と暮らしに役立つ農業総合専門紙です。地域の明るい話題やイベント情報なども掲載し、ご家族や非農家の方も楽しめる内容です。

- ▶発行/毎週金曜日発行
- ▶購読料/月額700円(税込)
- ▶申込み/農業委員会まで



### 鶴岡市農業委員会事務局

〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花25(鶴岡市藤島庁舎内) ☎64-5868・64-5860(直) FAX.64-5846  
 ○鶴岡分室 25-2111(代) ○櫛引分室 57-2114 ○羽黒分室 62-2111(代) ○朝日分室 53-2111(代) ○温海分室 43-4616  
<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/nougyouuinaki/index.html>